

泰日協会学校 (バンコク日本人学校) **学校だより**  
Thai Japanese Association School

令和3年度  
最終号

<https://www.tjas.ac.th>  
小学部第1職員室  
02-314-7334  
小学部第2職員室  
02-369-2750  
中学部職員室  
02-314-7335



ラーチャブルック

ราชพฤกษ์

※「ラーチャブルック」はタイを代表する花、ゴールデンシャワーをタイ語で表現したものです。

バンコク日本人学校長 谷口 幸一郎

先日、小学部第66回、中学部57回の卒業式が行われ、小211名、中101名の子供たちが本校を巣立っていきました。この一年間は、本当に様々な行事が縮小されたり、中止されたりと大変な一年でした。最後の最後までコロナのためにハイリスク者になり、卒業式に出席できないケースもありました。ただ、今年度は小学部も中学部同様にオンラインでの卒業式を実施できました。



さて、当日、式辞で述べた内容の一部を掲載したいと思います。

在校生にも届けたいメッセージでもあるので、各家庭で内容をかみ砕いてお話ししてあげてください。

**【小学部】**～前半略～ 6年生の皆さんは4年生の3学期からコロナ禍の中で小学校生活もままならない中で学習してきました。特にこの1年間、登校できた期間が半年もありませんでした。様々な行事ができなくなる中で、修学旅行だけは行かせてあげたいという思い。これは保護者の方々も私たち学校関係者も心から願ったことでした。修学旅行は一泊二日でしたが、実施できました。また、その時に合唱コンクールも行いました。一度に二つの大きな行事を私たちは知恵を絞って何とか実施することができたのです。オンラインで合唱を作り上げるとはとても難しかったと思います。そして、修学旅行の夜、その成果を堂々と披露してくれた皆さんの表情は、とてもすがすがしく、自信に満ち溢れていました。十月末から段階的に登校が始まりましたが、学級や通学バスの中でハイリスク者になり、学校に来ることができなかった日もありました。現に今日も自宅で卒業式に参加している人もいます。しかしながら、皆さんはその時その時に応じて、何事にもしっかりと取り組むことができました。通常、**海外に住むということは、文化や習慣そして食べ物など、日本とは違う環境に自分を合わせていく必要があります。**日本人には理解しづらいこともある一方、日本もこうであつたらいいなという部分もあります。特に皆さんはコロナにより、想像もしていなかった新しい生活様式に合わざるを得なかった部分もあつたことと思います。しかし、日本とは違う環境の中で生活することで、物の見方が変わるし、考え方も幅広くなります。つらかったけれども、学んだことも多くあつたはず。胸を張り、自信をもってこれからの道を進んでいってください。何事にも前向きにとらえること、そこから未来が始まります。

**「私は、神様は乗り越えられない試練は与えない、自分に乗り越えられない壁はないと思っています。」**

これは、東京オリンピックに出場した水泳の「池江璃花子」さんが言った言葉です。もちろん、これまでもいろいろな人が使ってきた言葉ですが、彼女が白血病、いわゆる血液のがんで苦しんでいるときに口にした言葉です。池江さんについては、皆さんも知ってのとおり、中学3年生の時に50Mバタフライで日本一になり、各種大会で優勝を重ねると共にブラジルのリオデジャネイロオリンピック代表になっています。将来に対して大きな希望をもっており、日本中が彼女に期待していました。当時、彼女は個人種目でなんと11の日本記録を持っていました。そんな中、2019年2月に白血病が彼女を襲いました。2020年東京オリンピック、開催までわずか1年半前の出来事です。

**絶望のどん底の中で、彼女が言った言葉が、「私は、神様は乗り越えられない試練は与えない、自分に乗り越えられない壁はないと**



思っています。」皆さんだったらどうでしょう。もし、私が池江さんの年で、同じ状況だったら、きっと不安や絶望に押しつぶされ、喚き散らし、親しい人に「自分の気持ちがわかってたまるかと」と八つ当たりをしていたと思います。そして、毎日毎日を暗く、過ごしていたのではないかと思います。ところが、池江さんは5年後に行われる「パリのオリンピック」を目指しながら、闘病生活の中でできる範囲のトレーニングを重ねていきます。

そして、コロナで東京オリンピックが1年遅れた結果、なんと**昨年の東京オリンピックに参加する資格を得た**のです。やっとプールには入れた時、他の病気が移ることを防がなければならないため、顔を水につけることは許されていませんでした。その時の体は病気をする前とは別人のようにとっても痩せていて、アスリートとは程遠い状況でした。その後、トレーニングを重ね、目標に向かって努力を積み重ねていきました。そして、目標だったパリオリンピックに参加することよりも3年早い、東京オリンピックへの切符を手にしたのです。「**希望が遠くに輝いているからこそ、どんなにつらくとも、前を向いて頑張れる。**」池江璃花子さんのようにできる人は本当にまれかもしれません。ただ、夢を諦めず自信をもつことはだれにでもできることだと思います。

～後半略～

【**中学部**】～前半略～本年度は年度当初からオンライン授業を余儀なくされ、登校ができるようになったのは、10月の末でした。コロナの感染状況がなかなかおさまる兆しが見えず、1月にはたくさんの児童生徒が陽性者やハイリスク者になり、学校へ登校できない状況になってしまいました。今日でもオンラインで参加している人もいます。

学校生活が大きく変わり、思い通りに物事が進まない中であっても、皆さんは、常に**しなやかな感性と行動力をもって環境に適応し、問題を乗り越えてきました**。特にオンライン「合唱祭」は、このコロナ禍だからこそ生れてきた教育活動だったのではないのでしょうか。はじめにこの計画を聞かされた時、私は思わず「無理」と言ってしまいました。チャレンジするのはいいけど、時間がとてもかかるのではないかと思ったからです。でき上がった作品は美しいハーモニーを響かせ、まるで一斉に合唱しているように見えました。よく見てみると、実は一人一人が自宅で自分のパートを違う日、違う時間で歌っている様子を動画におさめていたものでした。音の高さ、長さそしてピッチなど調整をしながら、一つの**目標に向かってバンコク日本人学校の中学生全員が、時間や場所を超えて心を重ね合わせて作り出したハーモニー**。感動的でまさに珠玉の合唱でした。制限のある中で、これほどのものを成し遂げた経験は、大きな自信となったはずです。この自信は、間違いなくこれからの世の中を生きていく上での心の支えにもなるものです。

ところで、皆さんは「**水原一平 (みずはらいっぺい) さん**」を知っていますか。すぐわかった人は少ないかもしれませんが、ヒントは「大谷翔平選手」。大谷選手は昨年、長い歴史のあるアメリカ野球、大リーグでMVPをとり、ピッチャーとバッターの二刀流として「野球の神様 ベーブルース」を超えたとされているくらい活躍しました。その大谷選手を思い出してください。特にベンチにいる時の様子を大谷選手のいつもそばにいる日本人。その人が「水原一平」(みずはらいっぺい)さんです。**彼の仕事は大谷選手の専属通訳**。様々なスポーツ選手に通訳がついていますが、他の通訳とは違い、私たちは彼をベンチでよく見かけました。水原一平さんは6歳の時に父親の関係で北海道からロサンゼルスに行きます。その後、アメリカの小、中、高校へ行き、大学はカリフォルニア大学リバーサイド校を卒業したそうです。彼の仕事は、大谷選手の通訳だけでなく、ドライバーとして球場への送迎、メディア対応など多岐にわたっています。でも私が不思議に感じたのは、大谷選手が野球をする時に彼もベンチにいたことでした。アメリカ大リーグには様々な国の人が集まっていて、当然、専属通訳もいるはずですが、イチロー選手の時も松坂選手の時も、通訳を見かけたことはありませんでした。一方、水原一平さんはベンチの中で通訳として大谷選手のそばにいただけでなく、他の選手と談笑している様子もよく見かけました。それは彼が単に英語が堪能だからだけではないと思います。周りの人が彼を受け入れてくれているような気がするのです。そこには彼が日頃から周りの人を理解しよう、そして打ち解けようと努力している姿が感じられるのです。幼少期をアメリカで育ち、きっと日本人差別を受けたこともあったでしょう。

その社会の中で自らがどう行動すべきかを考えて、異文化に適応していったのだと思います。

ある時、大谷選手が記者会見で意地悪な質問をされたことがありました。「大谷は英語を話せないのか。



しっかりと英語を学ぶべきではないか。」と注文をつけられたのです。その時、水原さんは「大谷は普段の日常会話だったら、普通に英語ができます。ただ、相手に誤解を招くような英語は使いたくない。しっかりと自分の本当の気持ちを伝えたい。だから、大事な場面では通訳を使うのです。」その後、その真意を知った記者は失礼な質問をしたと謝罪しました。**水原さんにとって英語のスキルとは単にしゃべれる能力だけではなく、アメリカ文化をしっかりと理解した上で、より深い信頼を築くものでもあるのです。**



「適応する力」「文化を踏まえた語学力」これらは日本人である水原さんが外国

に住んで学んだことの一部ではないでしょうか。卒業生の皆さんは、今からそれぞれの人生を歩み始めます。日本に帰る人、バンコクに残る人、様々です。ただ、共通して言えることは、**タイに住んでいたという事実**。そのことは皆さんの人生において**貴重な体験**です。ぜひそれを皆さんの人生に生かしてほしいと思います。今はタイ語が完璧に話せない。タイの文化も詳しくは分からないかもしれません。しかし、日本に住んでいる他の中学生の誰よりもタイのことが心や肌で分かっているはずですよ。

これからの社会に求められることは「**あなたは何を知っていますか**」ではありません。「**あなたは何ができるか**」。培った知識や技能を実践力として働かせることができるか、それこそが求められている力です。大切なことは、**自分の置かれている境遇を、ポジティブにとらえること**。そして、「**できること**」を増やすこと。この二つさえ忘れなければ、これから色々な場面で直面する課題も、必ず乗り越えられるはずですよ。もちろん、人には「**できないこと**」もたくさんあります。しかし、「**できないこと**」それは皆さんの「**可能性**」なのです。いつかは、出来るようになるその可能性を秘めている部分なのです。本校の教育目標は、「**自分の可能性を信じ、努力することのできる生徒を育成する**」です。必ず覚えていてください。皆さんの中には、多くの可能性が眠っています。自分の可能性を信じ、精一杯努力してみてください。いや、努力するのです。

「**艱難汝を玉にす**。（かんなんなんじをたまにす）」という言葉があります。ごつごつとした原石が磨くことによって宝石となるように、**皆さんの中に眠っている可能性に光をあてて大きく美しく輝かせてください**。

～後半略～

### 1年を終えて

本年度も、コロナがとても影響した一年でした。そのような中、保護者の皆様におかれましては、子供たちのサポートを子供に寄り添いながら行っていただいたことに、**心より感謝申し上げます**。

また、学校のコロナ対応の在り方については、管理職会等の意見を踏まえ、**本校ディレクター（本来の校長）を通じて、保健所等にもタイ語で何回も相談をさせてもらいました**。例えば、バンコク都の各保健所でも対応が少し違っているのではないか、そのあたりの調整はしないのかなど、指摘しましたが納得はしてもらえませんでした。

保護者の方には是非心に留めておいてほしいことは、**教員すべてが子供たちを学校へ登校させてあげたいと思っていることです**。このことは、**保護者と思いは一緒です**。

私たち教員も今年のことを教訓に子供たちがよりよい学校生活が送れるよう努力してまいりますので、これまで同様、ご支援、ご鞭撻賜りますようよろしくお願いいたします。

さて、本年度をもって、バンコク日本人学校を去られるご家庭におきましては、**友達と思い出と友情をいつまでも大切にさせてあげてください**。そして、いつの日にかまた会える日を楽しみにしておいてほしいと思います。

皆様のご健勝を祈念いたします。



令和3年度

ありがとうございました。

職員一同